

「子どもの育ちを考える」

～ 脳のはたらきを知ると支援が変わる ～



講 師 神戸大学大学院 人間発達環境学研究科 教授
医学博士 鳥居 深雪 氏

平成 26 年 6 月 29 日(日)、和歌山市北コミュニティーセンターにて講演会を開催致しました。講師には、神戸大学大学院 教授 鳥居 深雪先生をお招きし、先生のご経験に加え脳研究に基づいた様々な視点から、発達障害をもつ子どもに合った効果的な支援方法をお話頂きました。

国際生活機能分類 (ICF) の障害観と新しい診断基準である DSM - V から、本人の状態を障害だけではなく、環境因子や個人因子などその背景にある事項を含めて捉えていく必要があること。障害は固定的なものではなく、適応状態には可塑性があることなどをご説明いただきました。脳の可塑性については、3D ブレインの画像を活用して、その働きについてお話頂きました。その中で、脳に損傷を受けた子どもの脳については、損傷を受けた部位とは別の部位が働き、機能を補うといった例が印象的でした。

子どもの学習については、受講された皆様に、発声しながら文章を読む機会を与えて頂き、音読と理解とは別物であることを体験を通して実感しました。聴力と聴覚認知の違いについても同じく、先生に読んでいただく中で集中して聞いていても理解できない、ということを実感しました。聞くことに集中していても、理解できるように読む量を区切るなどの環境調整が必要であること。学習指導のコツとして、学習方法は1つではなく、本人の理解や記憶などの認知特性やワーキングメモリーに合わせた手立てや工夫が必要であること。記憶についても、①記銘 (覚える) ②保持 (貯蔵する) ③想起 (思い出す) という過程の中で、どの部分が苦手なのかを把握し支援していかなければいけないことを教えて頂きました。また、ADHD の児童に対する支援のコツとして、“やけくそ” にさせずにいかに支援するかが大切であるとのことでした。集団での適応が悪くなってきた時には、薬物療法も検討し、服薬の効果がみられている時に学習効果をあげることが必要になる場合もあるとのこと。ワーキングメモリーは、体調が悪い時などストレスがかかった状態だと機能低下がみられるため、入試などはリラックスさせて望ませなければならぬとお話頂きました。



「子どもの育ちを考える」
脳のはたらきを知ると支援が変わる
神戸大学大学院人間発達環境学研究科 教授 鳥居 深雪 氏
医学博士

講演の終盤では、実行機能についても触れて頂きました。ASD の特性を持つ方は実行機能の問題があるために切り替えがうまくいかない場合があるため、予告をして見通しを持たせる必要があること。また、視覚情報が有効だと一般的には説明があるが、周りの刺激に左右されやすいため、単に視覚情報だけを与えるのではなく、整理された情報を与えていくことが大切であると事例を通して、映像を見せて頂きながらご説明頂きました。さらに、社会のルールは自然には身につかないことから、適応的な行動を肯定的な表現で教えていくことも大切であると教わりました。最後に、発達障害を持つことは悪い事でも何でもない。その人にあった成長を保障し、その人らしく社会に適応していくように支援していくことが必要であること。ASD を持つ子には、その子に合った支援が必要であること。但し、周囲が先回りしすぎてトラブルが無ければ、本人の課題には気づけない。自分自身が課題に気づくことも大切であること。セルフアドボカシーを高め、自分のことを理解し、必要な場所で必要な助けを求めることができるように育てることが大切であること。発達障害を持つ子には可塑性があり、適応を高めることはできる。人を信頼できる子に育て、必要な場所で助けを求めることが大切であり、感謝できる子どもに育てることが支援の目標であるとご教授頂きました。

鳥居先生には、大変お忙しいところご講演いただき誠にありがとうございました。質疑応答の時間も、参加者の皆様からの質問に対して丁寧にご回答頂きました。おかげさまで、参加者の皆様が知識と元気、勇気を受け取り明日からの業務への活力を得ることができました。本当にありがとうございました。

末筆になりましたが、鳥居先生のますますのご活躍をお祈り申し上げます。

皆様からの声

* アンケート回収枚数 167枚

うち 参考になった → 166

どちらでもない → 1

みなさまからいただいた感想から・・・

- ・ ワークのような形で教えていただき、断片的であった知識を、少し統合することができました。脳の働きと併せて理解することで、より深まったと思います
- ・ 関わっている子どもたちの行動を、もう一度よく観察・評価し、脳機能と併せて考えていけたらと思いました
- ・ セラピスト（PT・OT・ST）の話もして頂き、心強く感じました
- ・ 声に出して読んで体験してみるというようなものが、何度もあってよかったです
- ・ どういう伝え方をしたら良いのか、どうしてそうなってしまっているのかが、分かりやすかったです。子どもに伝えるためのコツなども教えて頂き、気を付けて関わるようにしていきたいと改めて思いました
- ・ 今関わっている子どもたちの課題を、多面的に見てみようと思うきっかけになりました
- ・ 小さいうちからの対応をきちんとするだけで、随分変わるのだということ学びました
- ・ 視力ー視覚認知、聴力ー聴覚認知、理解、記憶のことを知ることができた
- ・ 乳児に関わりをもっているのですが、愛着・基本的信頼が大切なんだと改めて思いました
- ・ 細かいテーマごとに、最終何が言いたいのかをもう一度言ってくれたので、わかりやすかったです
- ・ 子どものことをよく知り、その子どもに合わせた支援がとても大事であり、その支援や環境によって子どもの人格形成に大きな影響を与えるということを、改めて感じました
- ・ 私たちも体験することで、子どもの困難さを理解しやすく助かりました。いつもイライラしてしまう自分自身の反省になりました
- ・ とても理解ができ、子どもの気持ちになり涙が出ました
- ・ これからの関わり方・将来のかたちの確認ができました
- ・ 脳のしくみについて少しでも早く判り、手立てを必要とする少しでも多くの人に伝えることを望みます
- ・ 否定的ではなく、肯定的な言葉かけは大事だなと思いました
- ・ 自分の考えていた教え方が、子どもにとってマイナスだった事がわかった
- ・ エビデンスに基づく説明は、わかりやすかったです
- ・ DSM-5について知ることができた。また、ASDの特徴や支援方法（具体的な）が参考になった
- ・ 具体的な話が多く、教育現場でのイメージがしやすかった

- ・ ADHD、ASD 各々に応じた支援を行う事、DSM-5 から変化をすぐ知る事など、支援児・家族・保育現場・行政で知恵をだしていきたいと思います
- ・ 自分のものさしで、子ども達と関わっているなど痛感し、今後の改善点や、その子に対し理解すべきポイントが見えてきました。障害への知識を深めることの大切さを学びました
- ・ 普段の生活の中の話に置き換えて話をしてくれるので、理解しやすかった
- ・ 困り感、自己の課題を表現できる子どもに育てていけるようになど、とても印象的でした
- ・ 今まで間違った支援や捉え方で、その子を苦しめていたことに気付かせてもらえた
- ・ 「なぜ？」という視点に立ってからメカニズムをご説明していただく事ができ、大変理解が深まりました
- ・ もっともっと繰り返しお話を聞きたい。継続して受講することはできないのでしょうか
- ・ 事情がわかれば見方が変わるというのも、共感できました
- ・ 「どうして？」と思う子どもの状態には、認知や感覚の違いや問題があるということが、よくわかりました
- ・ 自分の対応に自信のないところもありましたが、間違っていないと確認できたことも多く、安心しました
- ・ 障害にあった支援がわかりやすく説明されており、なぜその支援が必要なかがよくわかりました
- ・ 1人ひとりにあった対応をするのが大切だということを知りました
- ・ エビデンスに基づいた支援を考えていけそうです

要望・改善してほしい点について・・・

< 講演内容 >

- ・ 自閉症スペクトラムの子どもの対応の仕方をもっと詳しく学びたかったです
- ・ 2時間でまとめて理解するには、少し内容が多かった。もっとゆっくり聞きたかった
- ・ 資料にはないスライドも多かったので、すべて載せてもらいたかった
- ・ 最後の方にはなされていた SST について、もう少し知りたかった
- ・ 年齢が低いほどに障害がはっきりしないので、幼稚園児に対しての事例も聞かせて欲しかった

< 運営・進行 >

- ・ テーブルもある会場だったので、メモもしやすくありがたかった
- ・ 最後の Q&A がよかった
- ・ 途中、5分でいいので休憩が欲しかった
- ・ 講演時間をもう少し長くしてほしい
- ・ 質問用紙を配布してくださるなら、すべての質問に答えてくれる方法を取って欲しい

ポラリスへの要望や関心のあることについて

- ・ 発達相談を地域に合わせてして欲しい
- ・ 絵本の読み聞かせ、手遊び等について
- ・ 最新の情報の入る事はとても大切だとわかりましたので、今後もぜひ企画して頂きたい
- ・ ホームページ等で、発達障害に係わる新しい動き(制度や用語等)を紹介してもらえればと思います
- ・ このような学習会を校内でも開催できたら…
- ・ SST を広めて欲しいです。知らない先生が多すぎます
- ・ 教育現場と専門機関とのいい連携がとれればと思っています。和歌山でのシステムのモデルを考えて頂けるとうれしいです
- ・ このような勉強の機会を、またこれからも継続して欲しい
- ・ 乳幼児期に重点を置いた発達障害児・親への、対応・支援について知りたい
- ・ 講演会広報について。担任の先生に案内をもらわないと知らなかった可能性が高いので、個々人に案内をいただくことはできますか？
- ・ 講演会や相談業務以外にどんな事をされているのかを知りたいです
- ・ 現場で役立つ対応例や事例について知りたい。判断基準などもわかればうれしいです
- ・ 就労移行支援についてや、関係機関での協働・連携などについて
- ・ 保護者の方や、教育・福祉現場を志す人にも、このようなお話を聞ける機会と場がもっとあれば…

次回以降の講演会への要望

- ・ Part 2 として、次回も同内容で開催して欲しい
- ・ 紀南に近い会場にしてほしい
- ・ 学校教育、現状について
- ・ 思春期の発達障害児の理解、支援、現状について
- ・ 発達障害児者の就労について。どういう職業が向くか、障害者雇用制度について
- ・ 乳幼児期の支援や、早期発見のことについて知りたい
- ・ 就労支援や発達障害の働き方や、不登校・ニートになってしまった方への支援について
- ・ 各々の症状に合った取組み（訓練法）について知りたい
- ・ 就労等の問題、青年期を見通した関わり方なども聞きたいです
- ・ 保護者支援について
- ・ 反応性愛着障害について

- ・ 社会の中で活躍している「本人」のお話も聞いてみたい
- ・ 具体的な事例に沿いながらの会
- ・ なかなか解決に至らず、日々悩みながらの状態なので、実践について交流しながらの勉強会などを切望します
- ・ 問題行動に対しての具体的な対応策。なぜその行動が引き起こされるのか？また、その子の心理についてなど
- ・ いわゆるグレーゾーンの子ども・親への、対応・支援等について
- ・ 現在の、発達障害の子ども・大人の実情を知りたい
- ・ 知的障害を伴う自閉症を持つ保護者の体験談を聞きたい
- ・ 次回開催予定の就労のお話、楽しみにしています
- ・ 本人への告知の仕方（否定的にならないように）、その時期、その後の支援などについて
- ・ 少し難しかったので、保護者向けのやさしいのがあればうれしいです
- ・ 障害を持つ子どもが、実際大人になってどのようにになっていくのか、長い目でどういう支援をしていけばよいのかを知りたい
- ・ 保護者向け・教育関係者向けなど、分かれているとよいのでは？
- ・ 今回の続きで、発達性協調運動障害の話も聞きたい
- ・ 発達障害の思春期以降の課題、強迫性障害や拒食等への、教育・医療・家族の関わりについて
- ・ 療育や放課後等デイ・ショートステイなどの、サービス利用について
- ・ 中学校・高等学校・大学での支援について
- ・ 小1プログラムの現状と、幼児期のうちからの支援について
- ・ 小学校普通学級にいるグレーゾーンの子ども達の、学校生活とその実態について

この他にもたくさんの貴重なご意見、ご感想を頂きました。
今後のポラリスでの活動に活かしてまいります。
どうもありがとうございました。